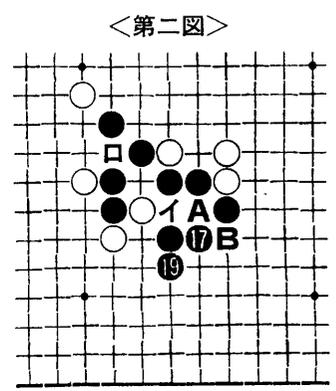


サテ名月一間飛びの打ち方
といっても前説の詳しい事は
いづれその内という事に致し
まして、スピード時代です
ら、一ぺんに有段者の打つ二
題打ちの本論に入ります。15
迄の組み立てが、連珠界の誇
りである坂田吾瑞第五世人
の推賞された打ち方です。ど
うですか、よい手に見えて来た
うです。この講座を読む人は幸
です。この講座を読む人は幸で
すね、運が良いで

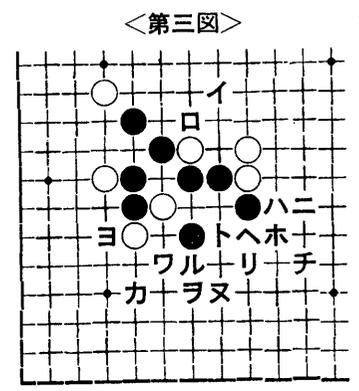
名月一間飛び

九段 西村 敏雄

ライバ
ルには
見せな
いで置
きまし
よう。
そこで
若し手
抜きを
した場
合に、



どんな黒の勝ちがあるか
という、16手抜きなら
17と打ってA又はBの四
三を見せます。白18でそ
れを防いだら、19と三を
引いて以下イロの四追い
といったヤサシイのです
が、これを防ぐには白の
変化は16ヶ所位あります

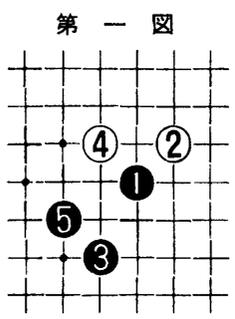


こうして白の防ぎを見る時には、手抜きして進めて見て、フ
イルムを巻き戻すのです。今なら、スロー・ビデオでもう一
度といった所、さて白がどこかに防いだとして黒は17をどこ
に打つか、それにはもう一度よく眺めて下さい。黒の先手で
すから、追手でも呼珠でも思いのまま、イヨ位迄15ヶ所位
あるのです。エッまだあ
るって、それはそうで
す。私は17を打つ前に白
紙に帰ってそれぞれの着
点の効用を考えて見たら
といってるのだゾ、寝言
でさえも意味があるのじ
や、まして有難い私のお
話しじゃマジメに聞けと

名月 一間飛びの 五珠入門

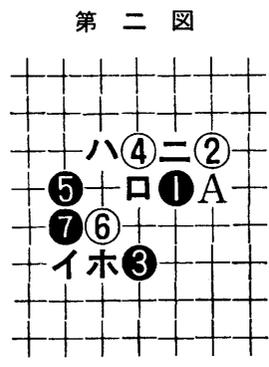
九段 西村 敏雄

名月の一問飛びについては、十数年前に、私共の恩師であ
る坂田吾瑞第五世人が、西日本地区で発行した月刊誌で新
連珠という本に、が、詳細に解説してございますが最近では、
その新連珠誌自体が貴重品でありますし、昨今の読者は、級
位者が多く、珠歴の浅い人も
多いので、ごくごくカンタン
に、5珠について述べて見た
かと思えます。



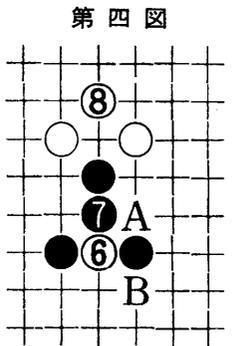
この5は定石です。名月と風
月に共通します。水月からも
同じ形が出ます。

第二図 名月一間飛びは名人戦でもさかんに打たれていた
ものでした。私と山北利徳九段との戦い、第三期名人戦で、
磯部恭三八段の挑戦を受けた時に、第四局で、磯部八段の打
って来たのが第六図とい
う工合に多くの例があり
ますが、この5は一番多
く打たれています。後手
としても尚魅力ある作戦
ですがこの5だけで、定
石に数百倍する内容と変
化があると言い得ましよ

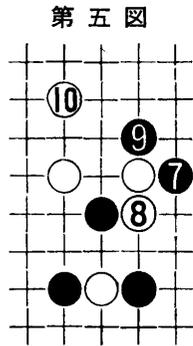


う。6は最強ですがAに防ぐ手もあります。6は敵の急所は
我が急所ですし、斜めの飛びに割り込むのは、長星の感じで
由来強いものです。7はこれが定石ですが、イロハニホ等も
打たれましたが、先手のハメ手で本手ではありません。

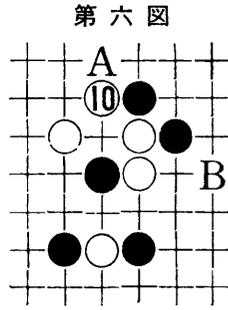
第三図、第二図の5もこの5も四十年以上前に打たれてい
ます。6は此の一手といえる急所で、先にどこに打っても黒
が急に楽になります。横の一間飛びにも割り込むのが、平凡
ながら強いのです。そこ
で7と山形に組めば、8
と一発でサイナラです。
第四図 それでは山田で
はない、こちらの山さん



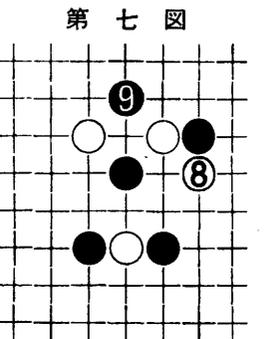
第四図 8と菅笠だか陣笠だか判りませんが、お帽子をかぶせてこれが後手勝とはナカセルね全く。



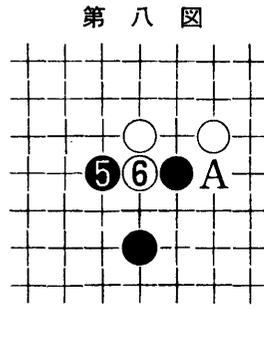
第五図 7はこれが正着で前図のA Bにも探されたが宝は落ちていなかった。この7で黒打るとは、高木楽山名人も同じ見方であったとは、サスガ名人とは偉いものです。8は何でもない様で強い防ぎ、9が必須の手で、白10は手筋ですが黒には用意があります。



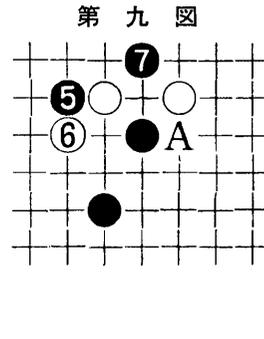
第六図 10は前図の防ぎが出来ないので、その意図をいくらか受けついで手で10でAやBに防ぐ手もありますが、大分前にこの10を研究しました。11はBに引いて戦う所です。



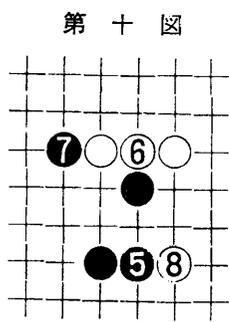
第七図 8の変化ですが、こいも前図の8と並ぶ強防です。9と叩くのは流星にも出てくる手筋です。これで局勢は互角ですが、黒には連が少いですが、大勢は何とか打てる様な感じがいたします。



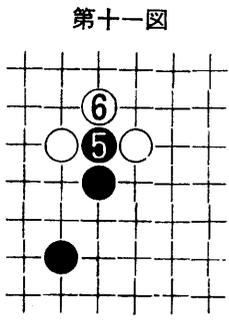
第八図 この5も古くからある手です。6はことごとくAが強いと思います。Aは各月一間飛びでは急所としてしばしば現われる手です。この5でも白後手勝にならなは容易でありませぬ。用意がなければ、大い黒勝ちでしょう。



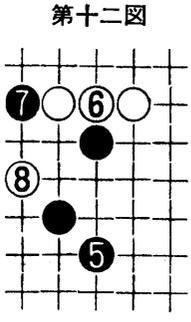
第九図 この5もある手で名人戦にも出現した。新宮珠鳳九段が得意としていた後手策である。6でAに打つのも御多分にもれず強い手である。7と打って戦



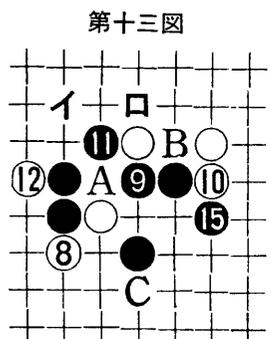
第十図 この5も以前からある手で、あまりかえりみる人は少なかったが、これも先手策としては成功することがよくある。6と一本引くのが普通だが、8と防ぐのが何といっても強い防ぎである。



第十一図 この5も又名人戦で打たれている。白の一間トビに5の様に手は定石や二題打ちに殆ど表れないが先手策としては名月に限らず、よく表れて結構良い所を行く、7がいろいろあるのも例の通り。



第十二図 この5は、伊藤諒石九段が研究発表をして居られたが、これも又打てる手である。こんないろいろな5珠があるのでは、大変だと思ってしまうが、高段者ともな

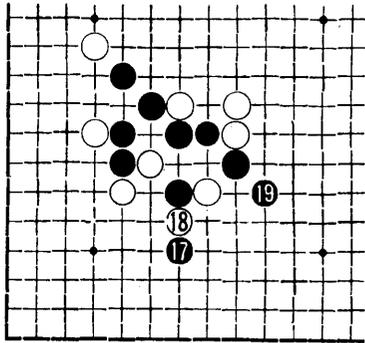


第十三図 第二図の7に返るが、8が最強で9はBにつつ込む手もあったが、これは、以下の構図に不満なので、手を変えたに過ぎない。

第十三図 第二図の7に返るが、8が最強で9はBにつつ込む手もあったが、これは、以下の構図に不満なので、手を変えたに過ぎない。

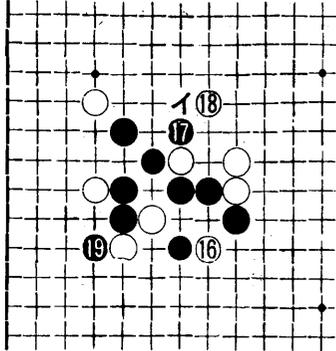
新連珠にのった坂田名人の研究にはイに13を引いてから15と打つ構想を推しようとしている。事実数多く打たれた戦譜はその形によっているが、十五道では打てないと思われていた手が、坂田名人の研究によって市民権を獲得したもので15は外に打つ手も試みられたが、黙って止めて置くのが味のある呼珠でいふし銀の様な手とはこの様な手をさしているのだらう。

第三図



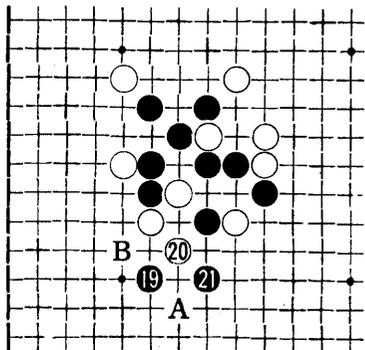
第三図
そこで考えを変えて19の突き出しと、これなら17の援軍を役立てる意味で実戦に使った棋士もおられる。これは私にも防ぎが難かしい、味の良い手だけにこの一発で防ぎ切れるとは自信を持っては言えないが、研究に値する事でしょう。

第四図



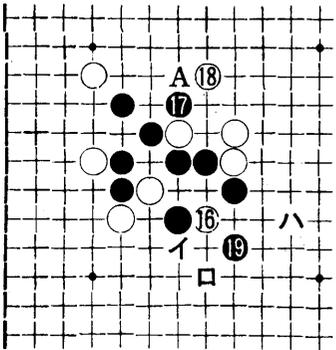
第四図
これも別の構想で、先月も16の変化の時に紹介したが、17から19の手に白が放置する手はない、それでは白の防ぎを調べて見ると、今は兎も角、名月のこの形は、イに白が打てれば、白有利という感が深い。この19は何時か急所になる時がある

第五図



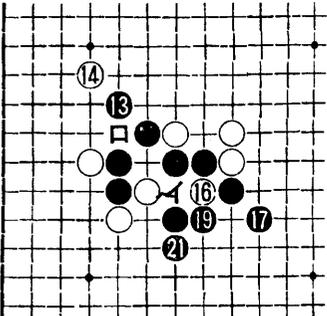
第五図
山北九段と、私との間で戦われた勝点に表われた19で、これも上下連絡の急所の一つである。20に止めてくれれば、21と打ってAを狙いとするし20で放置する手がないのは勿論である。20はBに防ぐのが強い。Aも急所になっていきますね、こうして段々に進んでいきます

第六図



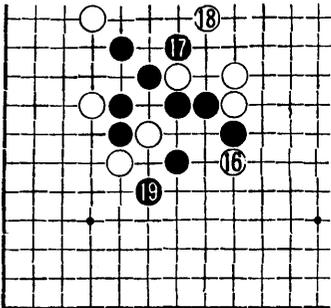
第六図
更にこの19と打つ手もある。黒の次の狙いは、イと打つての四追い含み口と打つての四追い含みや、ハの見せから改める手などあって、Aと打つひまはなかなかやってこない。何ですって20の防ぎですか、まあ口辺りでしようね。

第四図



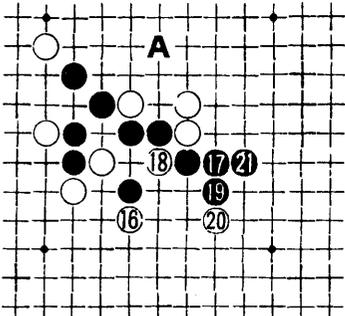
第四図
いう訳で、いれからが本番16の防ぎには17の突き出しで、18手抜きなら、1921でイ口の狙い、白の防ぎは17ヶ所位だが、必勝法の講義ではないので、17で先手有利もただだが、1314の交換がないと我然むずかしくなることに気付いたでしょう

第六図



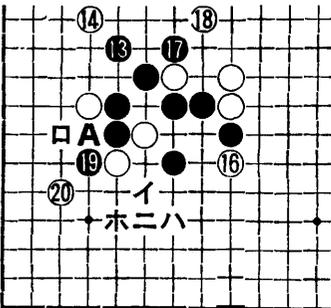
第六図
十番戦や、その外に数多く打たれていますが、結論が出ました。17と一本引いて18と防がせてから19と打つのが磐石の構え、17の時期がこの形では何時でも問題になる。19は17と気脈を通じた妙呼珠です。

第五図



第五図
シンセツノ第 図の16も名人戦に表れた手順で、17とこんな所に見せる手があるのです。18と焦点に止めれば、ぐいぐいと、1921と盛り上げて行くのです。磯部氏先番、田渡旭山八段後手番の局ですが、新連珠誌に坂田第五世名人が既に説明してあります。来て見れば何の奇もなき富士の山、先哲の苦勞が大きく見えます。その変化としてAと飛び出す手が必要。16の防ぎは以前から最強といわれてまた防ぎで、どう打つかは見物だが、山北利徳九段と新井華石九段との

第七図



第七図
1314を打たないで打つ場合もありますが、盤の広い時ならとも角、20やAに防がれては勝てませんが、19が急所の一つと言う意味は、白の反撃を防ぎ、上下の模様をつなげる上で、好点であり、時期が良ければキメ手となるでしょう。未だイロハニホ等打って見たい所は一杯残っているのですから。

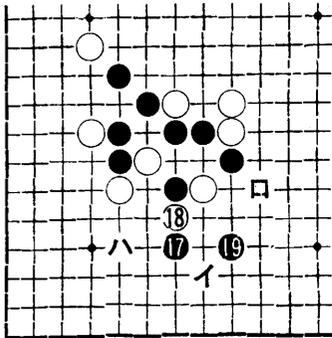
名月一間飛び

③

九段 西村 敏雄

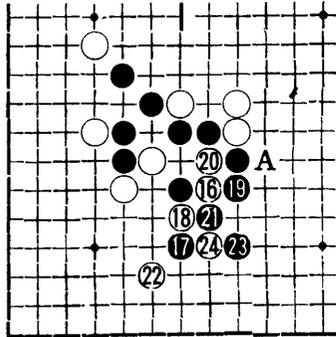
名月一間飛びの講義もいよいよ佳境に入った。16の防ぎが阪東陽月八段（北海道）と吉沢衆山八段（東京）が七段當時に戦われたもので、それが第一図の16以降の順で、22はAに防ぐと盤端で苦しみます。両先生共現在在は、珠界の第一線にお顔を出されておられますが、阪本陽月八段も、北海道珠界華かな頃は、数百人の会員を擁し又全国の高段者と実戦を打って歩かれた。阪本陽月実戦録などで好成績を残され、吉沢衆山八段は、永田青山、奥村嵐山氏の永田・奥村時代の後を受けて、吉村哲九段と共に、吉沢吉村時代として一世を風びした天才である。名月でこの16以降は如何にも十五道連珠の

呼珠と
いうも
のが味
える
と思う
で、高
段の方
でも大
いに参
考にな
ると思
います



第二図

そこでいろいろ工夫を試みられるので、19と打って次に狙う所はイロハ等と好点は多い。この19は白をふやさず、好点を先占するという忍法先遁の術だが、真面目に防がれていると、矢張り通じない。これも実戦に表れた順である。

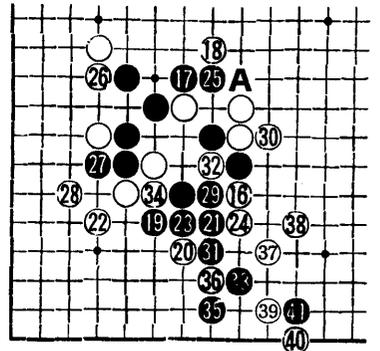


第一図

17は形よく飛び出して軽快だが、こうした形は平凡ながら、18と割り込むのが強く、17で18なら白17と頭を叩くのが強いと相場が定ったようなもので、22とこっちに防いでくれるヤサシイ人ならとも角として、22Aと防げば、これぞ真綿の防ぎで柔かそう強く苦しい。

(●)7

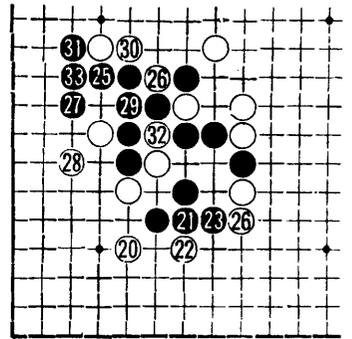
<第八図>



20の最強の防ぎです。21と落ちついでいて、22と上下の連絡をたった時、25と打って29の三三禁を六腐で消すのは、萩原副会長の名講義でした。25の手やAの手は、先手の権利ですから、それが良い手になる時期があったら遠慮なくお使い下さいこの局も又盤端一歩手前というか、五が出来る時は盤端になっています。

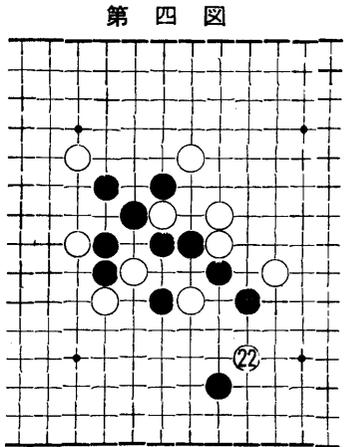
第九図の20の防ぎですこの形はAに黒が先手できます。Aには中止めの外にない、白にAに防がれると勝がなくなる変化も下辺の模様によってはあるので、25の前にAが必要かどうか考えるのがミソです。

<第十図>



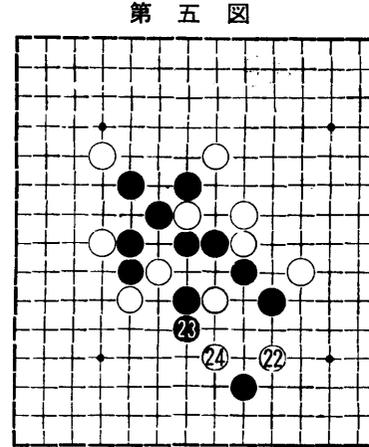
第十図の20もこの形で常に出て来る防ぎです。21と組んで、23と引き24と防がせてから2527なんていうのは、メッタにお目につからない妙手です。珍妙な手でも良い手は良い手、下辺の仕掛けと協力して生ずる妙手だ。28も双方の急所だが他の防ぎも御検討下さい。

- 四十六年六月号予告
 - 第九期連珠名人戦挑戦者決定リーグ
 - 東日本 前半戦
 - 第十期 彗星戦 熱戦譜
 - 第十八回全国通信戦大会熱戦譜
 - 昇入段テスト中上級解答
 - 詰連珠解答（3月号4月号出題分）
 - 会員総会報告新役員紹介
 - 名月一間飛び
- その他興味ある記事満載



第四図

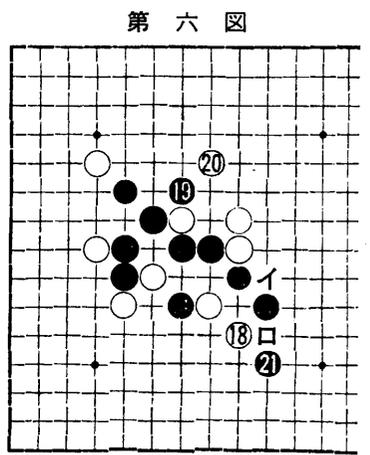
くになります。
 第四図
 18の防ぎが又もや六十カ所も変化のある所で連珠世界が千頁になってもお話し出来る所でありませんし、皆さんもあきてしまいます。22が久保岡武士七段が二段当時打たれた防ぎで読んでこれを防いだだけで高段者の資格があります。



第五図

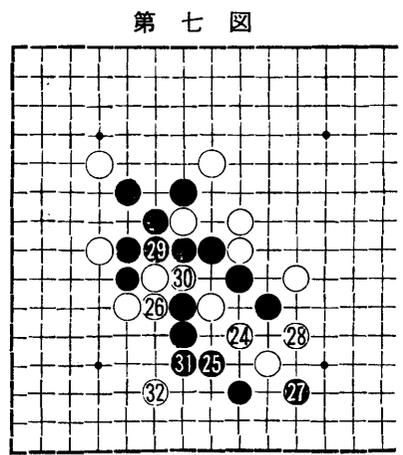
第五図
 23がいろいろ打って見たい所ですが白の順番なら上辺に追い勝ちが残っているので、攻めるとすれば今ですが、24でアナタならドウスル？

第五図
 23がいろいろ打って見たい所ですが白の順番なら上辺に追い勝ちが残っているので、攻めるとすれば今ですが、24でアナタならドウスル？



第六図

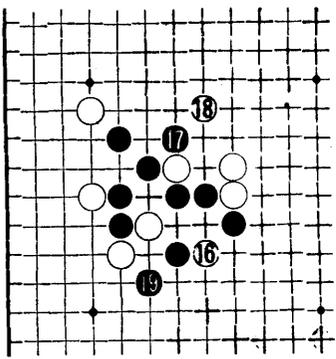
第六図
 18はかつて山北利徳九段に対し藤並久雄八段が名人戦で、師匠に恩を返した後手策で、21迄で黒が良いのだが勝つ迄に骨が折れるのです。22はイヤ口に防ぐのが強いこの18の様な平凡な手が実は強い防ぎだというのが面白い所である。



第七図

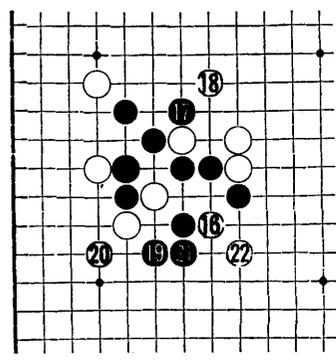
第七図
 こばまれてモノになりませんが、28も変化はあるのですが、29は30に防がれてもともとという手です。31が急所で32が強い

第七図
 24とこんな所で三を引くのも強い、25と四を一本引くのが急所で、単に27と打てば、白に25と



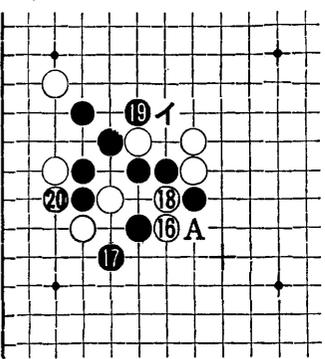
第七図

第七図
 17と一本引いてから19と打つのは磯部名人の案といわれるもので、十六年前前に内山珠策八段と磯部六段(当時)との間で打たれているそうですが、考えて見れば、19などは何の不思議もない手ですね、17と一本引くのが急所です。



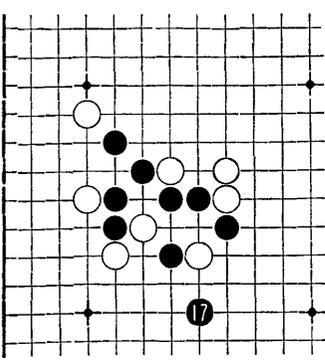
第九図

第九図
 全日本選手権戦が西日本新聞で行われた時代に磯部山北戦として表われた、20は強い防ぎで、黒手抜きなら白追い勝ち、黒が21と打ったのは、それをケンセイしながら攻めた手だが22が研究なくして打てない防ぎで、山北九段の白勝ちとなった



第八図

第八図
 17と先に打つと18と根本をおさえるのが急所です。19とタイミングがズレては、急所をおさえられて、尻から20と取られていけない。18がAなら20でも21でイと打つてその後で黒勝ちが残っていますから信じてね。



第十図

第十図
 この17も急所である。全く読者も奇妙に思われるだろうが、この16の防ぎには打ちたい所だらけだ。これも又名人戦で新井華石と安倍五段との間で戦われた手で、その後あまり出ていないが、黒よしとされている。

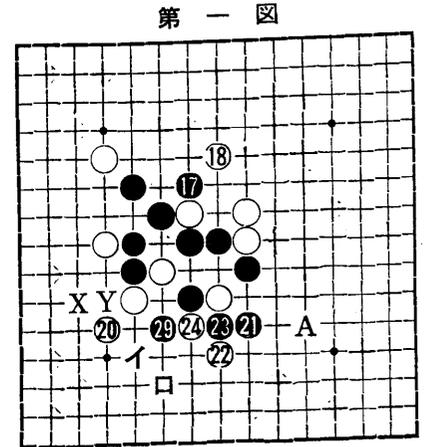
名月一間飛びの話も、いつ迄してもつきるものではないかもしれませんが、由来実戦家とか研究家とかいわれまして、やれ実戦一番の方が強いとか、研究してある方が得たとかいわれ、どれも一理ある言葉です。カラーの違いはどうしても出て来るもので、研究でよし、実戦でよしなう鬼に金棒という所です。過去に研究も多く発表されて来ましたが、勝負に使う心算の作戦を事前に発表することは、勝負師の心得にはない事で、今回の研究発表でも、その意味で、一部有段者にとつては寧ろ迷惑だったという声もありますが、大多数の読者は、過去の手段の歴史は知らない事が多いと思いますし、参考に

名月一間飛び

④

九段 西村 敏雄

事と思
なつた
参考は
過去の
。最後
の四三
迄書く
のは本
稿の狙
いでは
ありま
せんの
で一言

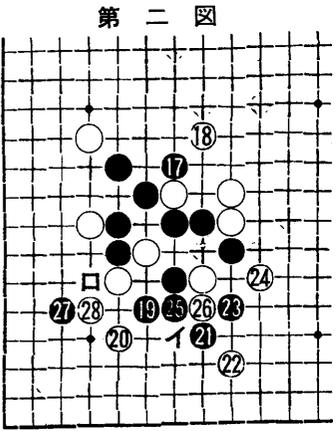


第一図
19は上の模様と連絡をとつての勝を見ているのですが、これに對して20の防ぎは、それを防いでいるだけでなくて、黒がのんびり打つていたら追い詰めをしようという怖い

手、20の他にもその意味ではXYも同様です。その中でも20が後の味が良いので、好い防ぎです。まあ攻防兼備の手です。実際にこうした手を探して見ることは上達の秘訣です。21が坂田告瑞第五世名人の講評にあつた手で、それを上廻る良い手です。白がYから追詰めに出れば、それを防ぎ乍ら追詰めをしようというのは21を24に打つ手と変りませんが、この21は単なるケンセイではなく、高らかな勝利の宣言です。少しでも隙があれば白もYからの追詰めが狙えるのですが、白には良い防ぎがありませんが22が未だ愛しているという手です。23と引いて24と交換した局面を見て下さい。白のXYの引き出しを見せられて、アナタナラドウスル。黒の右辺を

見て下さい、黒に引く手がないでしょうか、四追い含みも打てますね。Aと打つのが良い含みです。併しここで次にどう打つかという事も通信戦で多くの実戦例があり、碁部名人が講評されている様に追詰めがあります。第一図では右下が広く開いていますが、この追い詰めでは、右下の盤の一番隅迄使っています。ここでを他に打つ手はないかとも一度考えて見て下さい。そうです。23からの追い詰めは白がイやロにあればこの追い詰めは防げます。又このイロは、上辺と左辺を結ぶ追い詰めの防ぎにもなっています。ロの防ぎは佐々木昭紀九段の打った防ぎです。

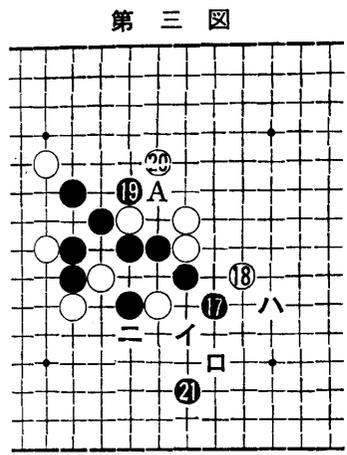
第二図
20の防ぎは、20から打ってくる黒勝ちを防いだだけでなく21を23に打つて



の勝ちを、21にはばんで止め様という手です。サラバと21に打つと、22が防ぎにくい要所、27をイと引いたのは田波八段、それを引かずに27が全く全局の中

心というべき妙手です。27をロに打つのと比べて下さい、黒の狙い自体は良く似ているのですが、ロでは防がれてしまうので27に打つて見ることなつたのでしよう。田波旭山八段に敬意を表すると同時に、イと引かない様にと適確な評を下された坂田告瑞名人に敬服せざるを得ません。28は最強の防ぎ、これで勝ち方が尙難かしいので、第三期名人戦の際に碁部恭三八段に掛けましたが、5から変つて来られたので表面に出ませんでした。29から二通りの勝ち方がありますが、一番早い勝は、碁部名人の発見になるもので、ズバリ採点に出題されていますからお氣付きの読者も多いと思います。これも楽しみに取って置きましょう。

第三図
17と突き出すのが、万人の認める要所です。18は防ぎ乍ら



黒がゆるい手を打つたら、Aに打とうという手です21は古くあつた手ですが、坂田名人講評の妙手、イロハも同じケンセイでも、役が續かな